

若年層に漁業についての関心を持ってもらうには

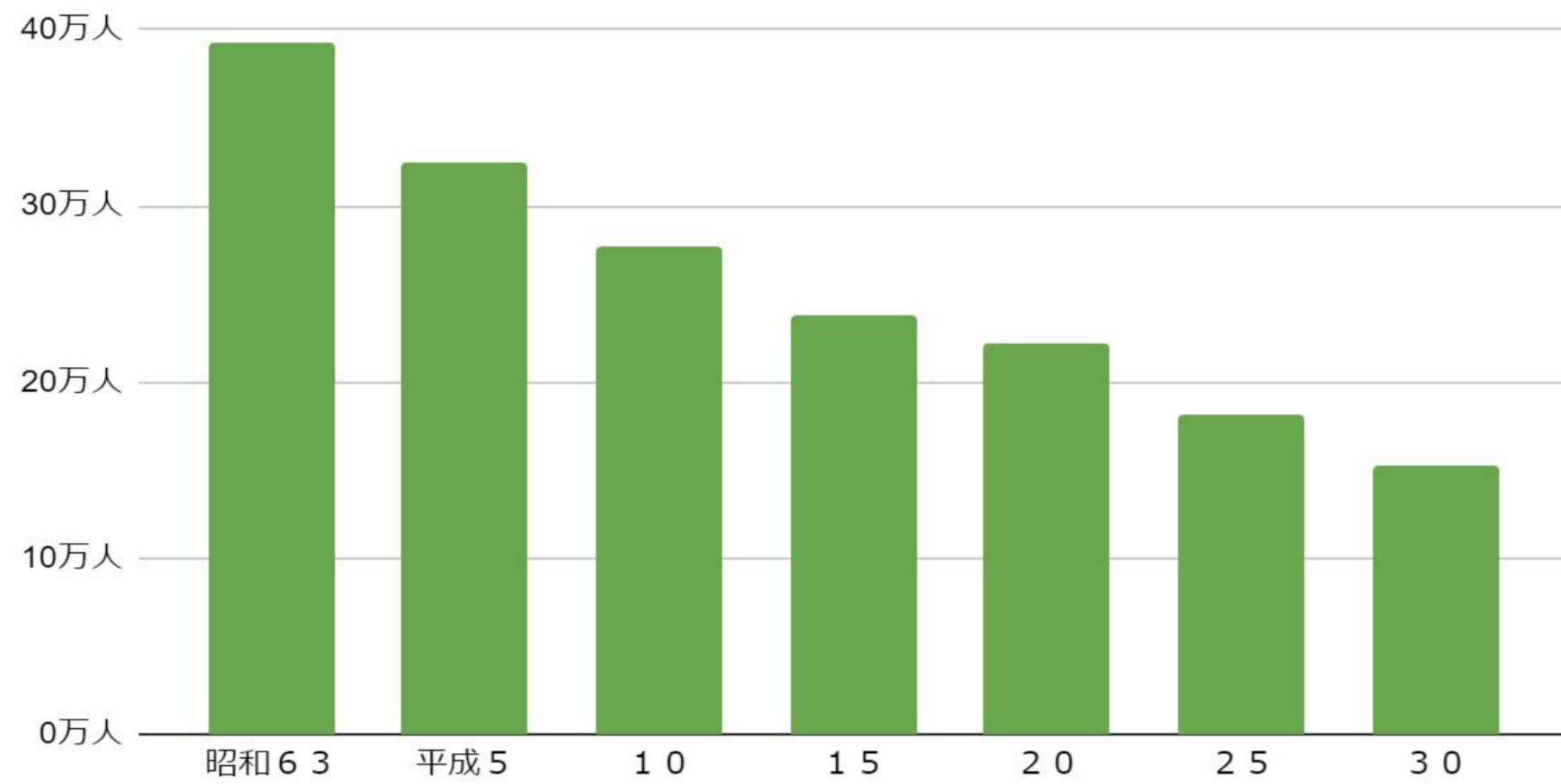
気仙沼高校 3401B

序論

現状: 市内の漁業就業者が減少し、気仙沼の伝統が衰退の危機にある

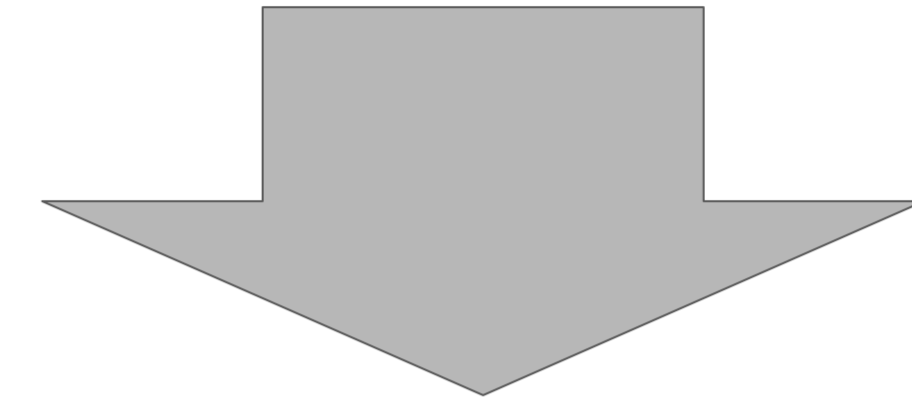
仮説: 漁業に関するデータを分析し、現場の人たちの意見を聴くことで、新規漁師が増える方法を模索する。

漁業就業者数の推移 (1)



結論

- 気仙沼市内で新規漁師を増やすには、
- ・機械化による作業の効率化、船内のWi-Fi普及による労働者の負担軽減
 - ・県外からの漁師も募集

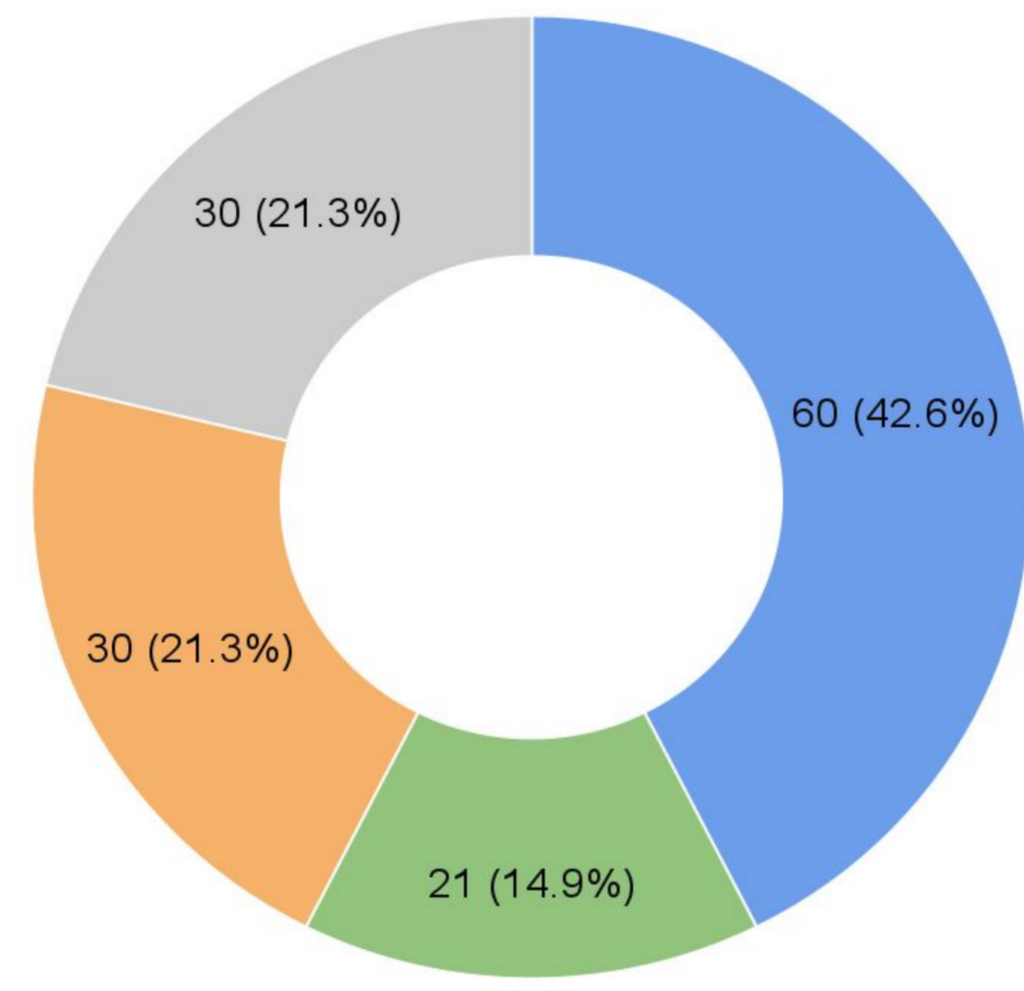
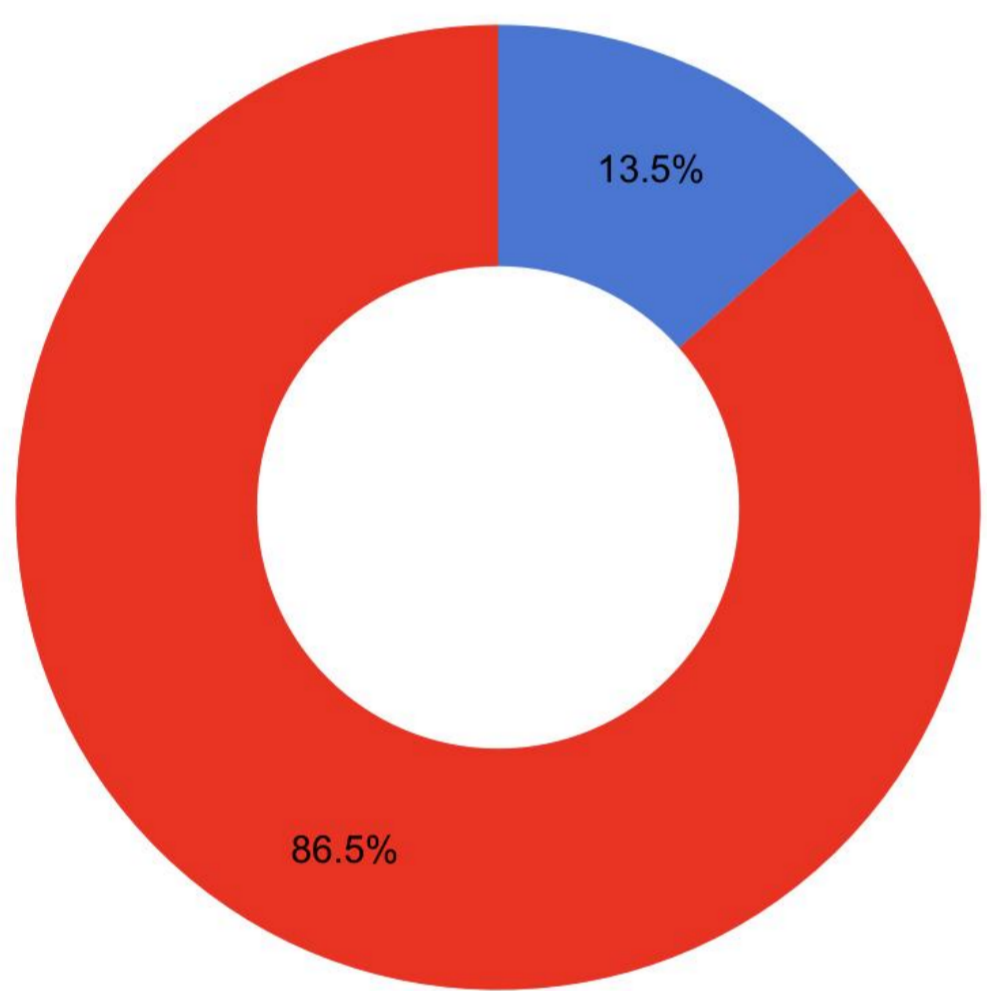


漁師一人ひとりを大切にし、働きたくなる職場を目指す。

本論 I

<アンケート 対象: 全校生徒163人>

- ① 漁業に興味はあるか ② なぜ漁業に興味がないのか



■ はい
■ いいえ

■ 力仕事が多い印象があり、大変そうだから。
■ 漁獲量に波があり、給料が安定しないから。
■ 身の回りに水産業関連の従事者がいないためどのような仕事か分からず、不安だから。
■ その他

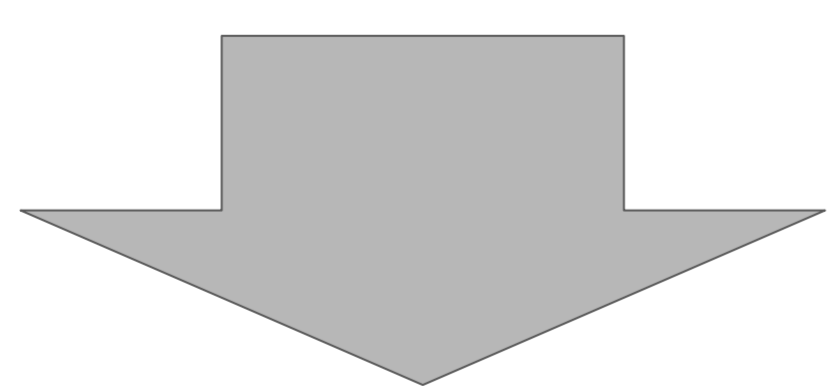
本論 II

<フィールドワークで分かったこと>

- ① 「漁師カレンダー」によって、県外にも気仙沼の漁業をPR
→ 漁師への敬意を示すと同時に、関心を持ってもらうきっかけになる
- ② 漁船内にWi-Fiを設置
→ 家族と連絡を取りやすく、心のケアに
- ③ 漁師のために、市内に銭湯を設置
→ 県外から来た漁師も手厚い歓迎
- ④ 積極的に職場の機械化を進める
→ 労働力の軽減

<アンケートの結果より>

- ・ 漁業に興味のある生徒(若者)は少ない
- ・ 力仕事の負担が、主な原因



労働の負担を軽減することができれば、新規漁師の増えるきっかけとなる

今後の課題

- ・ 新規漁師を増やす方法は考察できたものの、成果が得られるのに数年単位の実験が必要で、実際に効果があるかは証明できなかった
- ・ 漁師は、不漁などによって給料が低くなることが多く、若者が漁業を魅力的に感じにくい点がまだいくつかある

参考文献・協力してくださった方々

序論 (1) 「漁業就業者の動向」(農林水産庁)

https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/h30_h/trend/1/t1_2_2_1.htmlを加工して作成

協力してくださった方々 樺会専務取締役 小野寺様
阿部長商店様